

Message from the Chairman

これからも安心・安全な介護サービスを続けてまいります



理事長
谷内 好

豪雪に見舞われた札幌圏の今年の冬でしたが、道路事情の悪さと相まってデイケアやデイサービスの送迎に際してはご迷惑やご心配をお掛けしたことかと思えます。幸いにして大きな事故も無く、この春を迎えることができましたのは何よりの喜びです。一方で、世界的な混乱は極まるばかりで日常生活はもとより、医療や介護・福祉サービスにまで大きな影響を及ぼし続けており、終息の兆しは全く見えておりません。

そうした中で、臨時の介護報酬改定の実施が予定されました。2027年度は本来の改定が行われますが、大きくなりだした待った無しの声を受けてのことです。賃上げの世論が反映されての処遇改善と、光熱水費や食材などの物価高騰が挙げられています。皆さんに負担していただいている分がそれに応じて増えることとなり、制度とは言え心苦しく、ていねいなご説明とご理解を、と身を引き締めているところです。

介護の現場では、外国籍の職員と一緒に頑張っていただいておりますが、これを温かく受け入れていただき感謝の念に堪えません。

これからも安心・安全を旨にして行ってまいりますので宜しくお願いいたします。

Our Vision and Key Focus Areas

基本方針（ビジョン）

一 「選ばれる施設」

であり続けるために一

菊水こまちの郷は、「わが家のように、いきいきと。」の理念を大切に、地域の皆さまに安心して選ばれる施設づくりを進めています。

2026年度は、変化する介護ニーズに応えながら、4つの基本方針を柱として取り組みます。

■ 経営基盤の安定化

多様な人材の採用と持続可能な運営体制で、安定したサービス提供と地域への継続的な貢献を目指します。

■ 働きやすい職場づくり

安心して働ける環境と、多様な働き方を推進し、職員が長く活躍できる職場をつくります。

■ 質の高いサービスの追求

専門性の向上とチームケアを強化し、「安心」「安全」「その人らしさ」を守る支援を実践します。

■ 地域社会との連携

地域との交流や啓発活動を広げ、“地域とともに歩む施設”として役割を果たしていきます。

運営方針（3つの重点テーマ）

① 人材の採用と定着の強化

多様な働き方（シニア層・主婦層・介護補助者など）を受け入れる体制を整え、面談や研修を通じて“一人ひとりの成長が見える組織”を目指します。働き続けたいと思える職場環境づくりを推進します。

② 生産性向上のための業務改善

見守りセンサー、タブレット記録など、ICTの活用をさらに進め、“ケアに集中できる時間”を生み出します。業務効率化とケアの質向上を両立し、安心・安全なケア提供につなげます。

③ 地域福祉ニーズに応える事業戦略

小規模多機能型居宅介護・サテライト（るぴなす）が中心となり、“住み慣れた地域で暮らし続けられる支援”を強化します。在宅生活の継続、認知症支援、アウトリーチを通じ、地域の健康課題に寄り添う取り組みを進めます。

Our Approach to Dementia Care

認知症ケアの取り組み

『考え続ける認知症ケア』

認知症ケアには、これが正解という決まった答えはありません。当施設には認知症の方も多くおられます。だからこそ私たちは、ご利用者の表情やしぐさ、その言葉や行動に込められた思いに「どうして？」と問いかけながら、その方をより深く理解するために、どのように寄り添うべきかを問い続けています。

例えば、るぴなすでは一般的なレクリエーション（ゲームや工作など）をあえて行わず、会話や思い出を分かち合う時間をケアの中心にしています。懐かしい歌を一緒に口ずさんだり、昔の出来事を語り合ったりするような対話を大切にしている、それは、こうしたやりとりの中にその人らしさや、これまで歩んできた中で育まれた価値観が表れるからです。職員はそこから理解の手がかりを得ています。

日々の小さな“なぜ？”に耳を澄ませ、考え続けること——それが、菊水こまちの郷の認知症ケアへの取り組み姿勢です。



おしゃべりしながら蔬の皮むき

Learning Together as an Organization

『認知症ケアリーダーの役割』

当施設には、認知症ケアについて学ぶ役割を担った3名の「認知症ケアリーダー」がいます。現場での気づきや悩みを共有し、職員同士で話し合いながら、日々のケアを見直しています。この認知症ケアリーダーは、法人全体で認知症ケアの質を上げていくために位置づけられた役割です。法人が主体となって研修や学びの場を設け、継続的に育成を行っています。そこで得た気づきを当施設のケアに持ち帰り、より安心できる支援へとつなげています。

私たちはこれからも、一人で考えるのではなく、職員同士、そして法人全体で学び合いながら、認知症のある方が自分らしく過ごせる施設づくりを続けていきます。



ケアリーダーとしての思い

花田 恵

私は菊水こまちの郷の認知症ケアリーダーの一人として、年三回の会議や研修、学会に参加しています。そして、その中で意思決定支援や認知症ケアの最新情報を学んでいます。基本的な知識を見直し、新しい視点に触れることで、ご利用者との日々の関わりをより深めたいという思いが強くなっています。また、他事業所のケアリーダーとの横のつながりは心強く、悩みや気づきを共有できることで視野が広がることを実感しています。これからも得た学びを現場でのケアに生かし、その方らしい尊重した支援につなげていきたいと思います。



中央 花田 恵（介護職員）

介護ICTへの取り組み

『人と向き合うためのICT活用』

菊水こまちの郷では、まだ発展途上ではありますが、これからの介護に必要な取り組みとして、人と向き合う時間を大切にするために介護ICTの活用を進めています。

ICTを活用することで、業務の効率化や情報共有が進み、その分、ご利用者一人ひとりに丁寧に向き合うことができると考えています。

実際に活用しているICT

日々の支援の場面に応じて、ICTの活用方法を工夫しています。

施設で生活されている方への支援では、介護記録ソフト「ほのぼの」に加え、aamsや見守りカメラを導入し、必要な居室や場面を選びながら、ご利用者の状態や日々の変化を把握し、それらを日々の見守りや関わり方の工夫に活かしています。

一方、在宅での支援では、支援内容や情報共有の必要性に応じて、介護記録ソフト「ほのぼの」を主に活用しています。

『見守り機器 aamsとカメラ』

aamsは、ベッドのマットレス下に設置する非接触型の見守りセンサーです。ご利用者の睡眠の様子や体動、呼吸の状態などを、パソコンやスマートフォンで確認することができます。



見守りカメラにより、必要に応じて居室内でのご利用者の様子を確認しています。夜間も眠りを妨げることなく見守りを行っています。また、転倒・転落などが起きた際には、状況を振り返り、その後の見守りや予防につなげるための参考としています。



日中の見え方

夜間の見え方

『介護ICTソフトほのぼの』

食事・水分や排泄の記録をはじめ、日々の体調変化などをリアルタイムで共有しています。情報を職員間で共有することで、他職種との連携や日々の気づきに役立てています。

チームで進めるICTの取り組み

介護ICTの推進は、これからの介護には欠かせない取り組みだと感じています。

一方で、現時点では、導入したICTを十分に使いこなせているとは言えない部分もあります。だからこそ、私たちは「まず職員自身が、ICTの効果や良さを実感できること」を大切にしています。

日々の業務の中で負担の軽減や安心感につながるなど、「使ってよかった」と感じられる経験を積み重ねていくことが、ICT活用を定着させる第一歩だと考えています。今後も、チームで話し合いながら、現場に合った形でICTの活用を進めていきます。



生産性向上委員会の様子

今後の展望について

介護ICTは、現場の状況や職員の声を大切にしながら、少しずつ育てていくものだと考えています。今後も話し合いを重ね、職員が安心してICTと向き合える環境を整えながら、日々のケアの中で自然に活用できる形を探っていきます。ICTは目的ではなく、ご利用者一人ひとりと向き合う時間を大切にするための手段として、菊水こまちの郷らしいICT活用を丁寧に実践していきます。

食を通して、大切にしていること

菊水こまちの郷では、「食べること」は単に栄養をとるための行為ではなく、季節を感じ、人と人がつながり、心が動く大切な時間だと考えています。

誰かと一緒に食卓を囲むこと、つくる過程を楽しむこと、思い出を分かち合うこと。そうした一つひとつの時間が、日々の生活の安心や生きがいにつながると信じています。



Our Approach to Food

菊水こまちの郷（地域密着型特養）

『季節を味わう、さくらんぼ狩り』

季節を楽しむ取り組みの一つとして、「さくらんぼ狩り」を行いました。赤く実ったさくらんぼを前に、自然と会話が生まれ、さくらんぼを選ぶ時間そのものが、笑顔あふれるひとときとなりました。食べる楽しみだけでなく、季節を感じ、思い出を語り合う時間を大切にしています。



Connect & Learn More

広報誌第2号を、皆さまのおかげで無事に発行することができました。今号では、新年度に向けた考え方や方針とともに、認知症ケアや介護ICT、「食」を通じた取り組みなど、現場の様子をご紹介します。これからも【菊水こまち郷】、【るぴなす】の取り組みをお伝えしてまいります。

るぴなす（サテライト型小規模多機能）

『畑で育て、みんなで調理する時間』

畑で育てた野菜を使い、ご利用者の皆さんと一緒に調理し、食べる取り組みを行っています。収穫した野菜を前に、調理の仕方や食べ方について自然と会話が広がります。一緒につくり、味わうことで、日常の中に楽しさや達成感のあるやさしい食の時間が生まれています。



ひとりと向きあう。

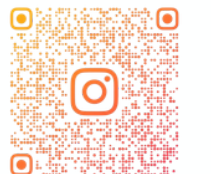


発行 : 菊水こまちの郷
発行責任者 : 施設長 土井 陸維

SNSで施設の様子を紹介しています。ぜひご覧ください！



菊水こまちの郷（公式）



@KOMACHINOSATO_RUPINASU

〒003-0814
札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
TEL (011) 811-8110